様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		第１７回　相模原市簡易水道事業審議会		
事務局 （担当課）		津久井下水道事務所　電話０４２－６８７－５５０４（直通）		
開催日時		令和８年１０月７日（水）　午後１時００分～４時１０分		
開催場所		藤野総合事務所３０３会議室、市内水道施設		
出席者	委　員	５人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	６人（下水道部長、津久井下水道事務所長、他４人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		１　開　会 ２　下水道部長あいさつ ３　委嘱状の交付 ４　委員紹介 　会長及び副会長の選出について ５　報　告 （１）相模原市簡易水道事業審議会について （２）令和７年度相模原市簡易水道事業会計決算報告 ６　議　題 　現地視察 ７　その他 ８　閉　会		

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。

（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1　開　会

2　下水道部長あいさつ

下水道部長よりあいさつを行った。

3　委嘱状の交付

事務局から委嘱の内容について説明を行った。

4　委員紹介

委員の自己紹介及び事務局の職員紹介を行った。

会長及び副会長の選出について

簡易水道事業審議会規則に基づき、委員の互選により荒井委員を会長に選出した。また、会長に事故があったときなどの職務を代理する副会長として、会長から松原委員が指名された。

5　報　告

（1）相模原市簡易水道事業審議会について

事務局から資料について説明を行った。

事務局からの説明に対する意見等は無かった。

（2）令和７年度相模原市簡易水道事業会計決算報告

事務局から資料について説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

○今回の報告は料金改定が実施される前のものか。（松原副会長）

●令和７年度から料金改定を実施しており、料金改定を反映した決算報告である。（事務局）

○令和６年度と比べて大幅に改善しているということか。（松原副会長）

●令和６年度の水道料金収入が約２，６００万円であり、令和７年度は約３，５００万円であることから増収はしているものの、水道料金収入だけでは必要な経費を賄えていない状況である。（事務局）

○想定していた増加分ということか。（松原副会長）

●概ね見込んでいた着地となっている。（事務局）

○料金改定で抜本的な体質改善がされるかというと、当初から難しいと言われ

ていたが、今後、県営水道との統合をロードマップで最終目標として定めている中では、まずは料金改定により足並みを揃えていくという意味合いがあった。松原副会長が御指摘のように、効果という意味では大きくはないものである。（荒井会長）

○構造的に、この状態が長引けば長引くほど市の一般会計からの繰入金が続くことになる。神奈川県の水源地域であり、（宮ヶ瀬ダム道志導水路建設に関する）補償に関連する部分が含まれている地域のことだけに、早く県営水道に統合してもらいたい。水道料金はそんなに変わらなくても、工事費用はとんでもなく高くかかる。そのようなところが残されているのが現状である。相模原市簡易水道だけで事業を行うのではなく、県営水道と一体でスケールメリットを活かした方向へシフトできないのかと思う。それが大きな課題だと思う。何らかの形で最終目的地として県営水道との統合のためステップが進めば良いと強く思うし、その時期に来ているのではないか。（関戸委員）

○広域化をはじめ、分散型や集約型など、地域特性に応じたシステムをベストミックスで実施していく。相模原市だけの話ではなく、全国でやっていかなくてはならないものである。県との広域化は方向性として目指していくことは揺るがないものであり、今後の地域水道ビジョンの改定の中で議論されていくことでもある。（荒井会長）

6　議　題

現地視察

次の水道施設の現地視察を行った。

①青根浄水場　②中間貯留槽　③エビラ沢取水場　④大久和新水源

7　その他

8　閉　会

以　上

相模原市簡易水道事業審議会（第１７回）委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　考	出欠席
1	荒井　康裕	東京都立大学都市環境学部 准教授	会長	出席
2	加藤　義久	藤野地区自治会連合会 自治会法人奥牧野		出席
3	笹原　俊一	公益社団法人日本水道協会調査部調査課 調査係長		出席
4	関戸　正文	青根地域振興協議会 顧問		出席
5	松原　沙織	獨協大学経済学部 教授	副会長	出席